

# 令和7年度 第1回 史跡元寇防塁(箱崎地区)整備活用検討会

## 会議次第

日時:令和8年1月7日(水)

午後2時30分～午後4時30分

場所:福岡市博物館 2階 多目的研修室

### 1. 開会

### 2. 事務局挨拶

### 3. 委員、出席者紹介(資料1)

### 4. 事業概要説明(資料2)

### 5. 協議事項

展示施設について(資料3)

### 6. 閉会

#### 添付資料

- ・ 資料1 委員名簿、検討会設置要綱
- ・ 資料2 史跡 元寇防塁(箱崎地区)の整備・活用について(概要)
- ・ 資料3 展示施設について
- ・ 参考 元寇防塁パンフレット(令和6年作成)

## 史跡元寇防塁(箱崎地区)整備活用検討会 委員名簿

氏名	役職名	専門
堀賀貴	九州大学総合研究博物館 館長 九州大学大学院 教授	建築・都市史
田尻義了	九州大学大学院 教授	日本考古学
千相哲	九州産業大学 教授 九州産業大学 副学長	観光学
中村直人	九州大学大学院 准教授	情報科学

# 令和7年度 第1回 史跡元寇防塁(箱崎地区)整備活用検討会

## 出席者名簿(敬称略)

### [委員]

九州大学総合研究博物館 館長	堀 賀貴
九州大学大学院 教授	田尻 義了
九州大学大学院 准教授	中村 直人

### [オブザーバー]

福岡市立箱崎中学校 校長	今村 隆
九州大学総合研究博物館 助教	福永 将大

### [福岡市]

経済観光文化局	
理事	富田 雅志
文化財活用部長	白石 将俊
史跡整備活用課長	中村 啓太郎
史跡整備活用課史跡整備活用係長	森本 幹彦
史跡整備活用課史跡整備活用係	神 啓崇
史跡整備活用課史跡整備活用係	田中 朱璃

# 史跡元寇防塁(箱崎地区)整備活用検討会設置要綱

## (設置)

第1条 九州大学箱崎キャンパス跡地の新しいまちづくりと調和する史跡元寇防塁の整備と公開活用(以下「整備活用」という。)に関する検討を行うにあたり、専門的見地から幅広い意見を聴取するため、史跡元寇防塁(箱崎地区)整備活用検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

## (協議会の目的)

第2条 検討会では、前条の目的を達成するため、整備活用の手法について委員から意見を収集する。

## (委員)

第3条 検討会の委員は、別表に掲げる者とし、福岡市経済観光文化局長が選任する。

## (委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。

## (検討会)

第5条 検討会は、福岡市経済観光文化局長が開催する。

## (検討会の議長)

第6条 検討会の議長は事務局の推薦によって選任する。

## (守秘義務)

第7条 委員は、その職務に関して知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また同様とする。

## (情報公開)

第8条 検討会は、公開とする。ただし、検討会が福岡市情報公開条例(平成14年福岡市条例第3号)第38条ただし書の規定に該当するときは、非公開とすることができます。

## (補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会に関し必要な事項は、福岡市経済観光文化局長が定める。

## 附 則

この要綱は、令和7年11月1日から施行する。

## 史跡 元寇防塁（箱崎地区）の整備・活用について（概要）

九州大学箱崎キャンパス跡地で確認された元寇防塁について、史跡としての保存継承とともに、跡地のまちづくりとも調和する歴史資源とするための整備・活用を検討する。

### 1 史跡指定地の現況

- 箱崎地区の元寇防塁は、「石積み」と「大溝」を特徴とする。
- 発掘調査で、部分的な遺構の残存が確認され、現在は遺構保存のため、地下に埋め戻された状態。
- 国指定史跡は南地点と北地点に分かれている。

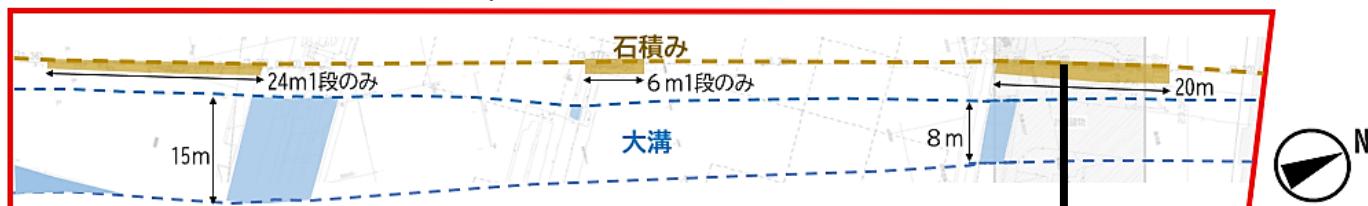
#### ■ 史跡 元寇防塁（箱崎地区）の概要

- ・元寇防塁は昭和6（1931）年に国史跡指定され、地蔵松原地区はこのときから史跡となっている。
- ・箱崎地区は、九州大学箱崎キャンパス移転にともない、平成28年以降の発掘調査で 遺構が確認され、令和2年3月と令和3年10月に国史跡に追加指定。
- ・南地点は令和5年度に公有化、北地点は令和7年度に公有化予定。



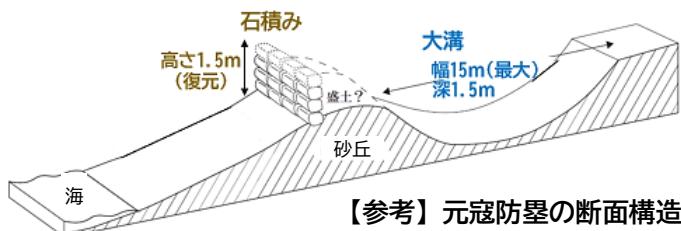
九州大学箱崎キャンパス跡地の事業地と史跡の位置

#### 史跡（南地点）の現況 平面図 4,504m<sup>2</sup>（約160m×27m）



元寇防塁の石積み  
の残存が確認された地点

元寇防塁の大溝  
の残存が確認された地点



【参考】元寇防塁の断面構造



平成28年発掘調査

## 2 整備基本計画（令和4年策定）

### ◆整備活用の基本理念（元寇防塁全体）

中世の国際情勢を端的に示す元寇防塁を通して、平和について思いを馳せながら、対外交流を軸として都市の発展と多様性を生み出してきたグローバルな「ゲートウェイ都市」福岡の、歴史を知り未来につなぐ。

### ◆整備活用の基本理念（箱崎地区元寇防塁）

新しいまちづくりと調和した空間の中で、博多湾岸に広がる元寇防塁に対する理解を深めながら、都市福岡の過去～現在～未来をつなぐ歴史的価値とストーリーを伝えるとともに、日常的なゆとりある憩いの空間や様々な分野と連携した取り組みを提供する。

### ●整備活用の基本方針（要旨）

#### ①本質的な価値の確実な保存継承

○遺構の保存継承を確実に行いながら、本質的価値の顕在化を図ることが重要であり、これまでの調査・研究によって得られた知見に基づき、保存継承に向けて十分な対応を図る。

#### ②「ゲートウェイ都市」としてのシビックプライドの醸成

○福岡の過去～現在～未来につながる場として、そこに暮らす誇りや歴史に対する関心を醸成し、親しみを育んでいく。特に未来を担う子供たちに対する歴史学習の機会創出に留意し、歴史学習の拠点形成や史跡を活用したプログラムづくりの推進などを図る。

#### ③先進的まちづくりに調和したインクルーシブな整備

○元寇防塁の持つ歴史的意義やストーリーについての理解・周知を進め、広くその魅力や価値を伝えていくことが必要である。

○九州大学箱崎キャンパス跡地で行われる新たなまちづくりとの調和を目指すとともに、楽しみながら体験的に歴史に対する理解を深めることができる展示解説や先端技術を活用した情報発信等により、誰もが史跡の本質的価値にアクセスできるインクルーシブな整備を目指す。

#### ④多様な来訪者の憩い・交流の場となる空間の創出

○外部に対して開かれた史跡となるよう、柵のないシームレスな構造とし、まち全体の一体性の一翼を担う空間としての役割にも留意した景観形成を図りながら、誰もが憩い、交流することができる空間の創出により、多様な利用者のウェルビーイングの向上を目指す。

#### ⑤新たな価値の付与や魅力の向上による機能充実と活用促進

○箱崎地区の周辺施設や文化資源、市内に点在する元寇防塁指定地等についての理解を深め、周遊に誘うとともに、にぎわい・集客・歴史理解に資するための総合拠点と位置付け、便益・休憩機能の充実や活用促進を図る。

○その実現のために、多様な主体との連携を図り、民間活力の導入等による新たな価値の付与や魅力の向上、持続可能な管理体制の構築等を目指す。

## 【参考1】箱崎地区から発信する歴史ストーリー

箱崎の過去・現在・未来をつなぐストーリー案。展示施設の映像コンテンツなどでの発信を検討。

### ○イノベーションを生み出すストーリー

- ・博多湾に面した箱崎の発展は10世紀前半の筥崎宮の遷座により始まる。以降、博多と並ぶ都市として、国内における交易の拠点として発展
- ・史上最大の国難である蒙古襲来に際しては、土木技術や軍事戦略上のイノベーションの結実である元寇防塁によってモンゴル軍の撃退に成功  
元寇防塁はリスクに強いまちづくりにもつながった
- ・戦国時代末期には豊臣秀吉の御座所が箱崎につくられ、戦乱で荒廃した博多の都市景観を変革する復興をおこなった
- ・九州帝国大学の開学以降は西の「知」の拠点として、様々な技術革新に取り組み社会に還元
- ・最先端の技術を導入するスマートサービスの提供によって、様々な社会課題を解決し、持続的に発展していく都市を目指す



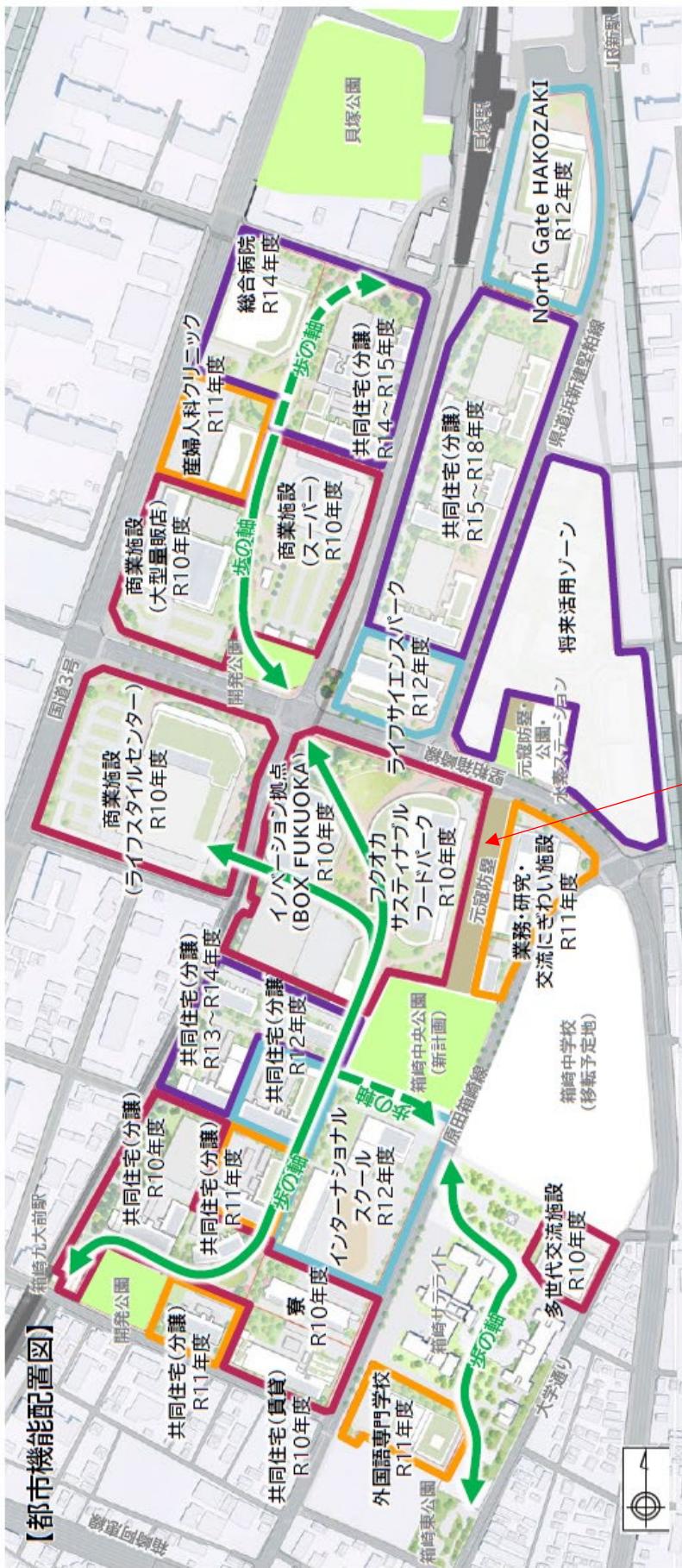
### ○高質で快適なライフスタイルや都市空間の提供するストーリー

- ・多くの商人が、国際交易に積極的にチャレンジし、先端技術でつくられた陶磁器を受け入れるなど、新たなライフスタイルを獲得
- ・白砂青松の箱崎松原は古くから風光明媚な、都市近郊スポット。豊臣秀吉が開催した茶会では千利休をはじめとする文人が集い、文化を発信。江戸時代には放生会に合わせて「幕出し」が行われ、多くの市民が楽しむ娯楽として賑わった
- ・唐津街道の重要な宿場町として、藩主滞在の屋敷が築かれ、多くの人々が行き交う都市空間であった
- ・近代の箱崎海岸には海水浴場や福岡初の洋式ホテル抱洋閣、水族館などが整備され、多様なアクティビティを備えた都心近郊のリゾートとして、高質で快適な都市空間を提供してきた
- ・グリーンフィールドを活かした都市空間で、多様な都市機能と連動したスマートサービス等が生活の質を高める、まちづくりを目指す



## 【参考2】九州大学箱崎キャンパス跡地の事業計画

## 【都市機能配置図】



四

開業年月(予定)

R10年度(第1期まちびらき)

R11年度

R12年度

R13～R18年度（まちの概成）

元寇防墨(箱崎地区)南地点

歩の軸

R10年度(第1期まちびらき)に併せて供用

### ➡ 周辺施設の整備と併せて進田

\* ファミリー向け共同住宅については、令和10年度以降、南エリアから、年度毎に約250戸ずつ供給（計2,000戸）

**参考** 九州大学基本計画室「福岡市みどり局・令和7年12月」による報告書

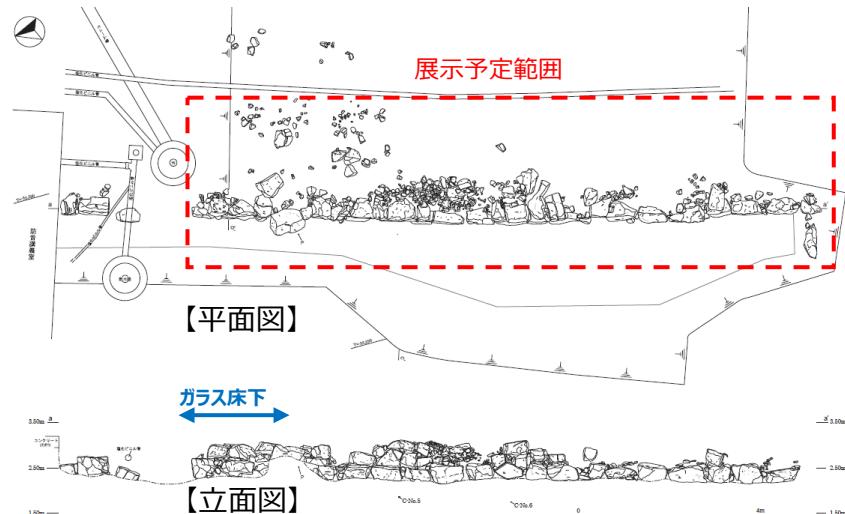
## 1. 全体イメージ

- ①遺構の保存を前提として、史跡のリアリティを伝える、現地ならではの元寇防塁展示
- ②歴史ストーリーを映像で発信し、史跡や箱崎エリアへの理解を深める
- ③子どもが楽しく元寇の歴史を学ぶ体験展示など
- 市内の元寇防塁等、関連遺産への周遊を促進する情報発信など

## 2. 主な展示コンテンツ案

### ①遺構展示

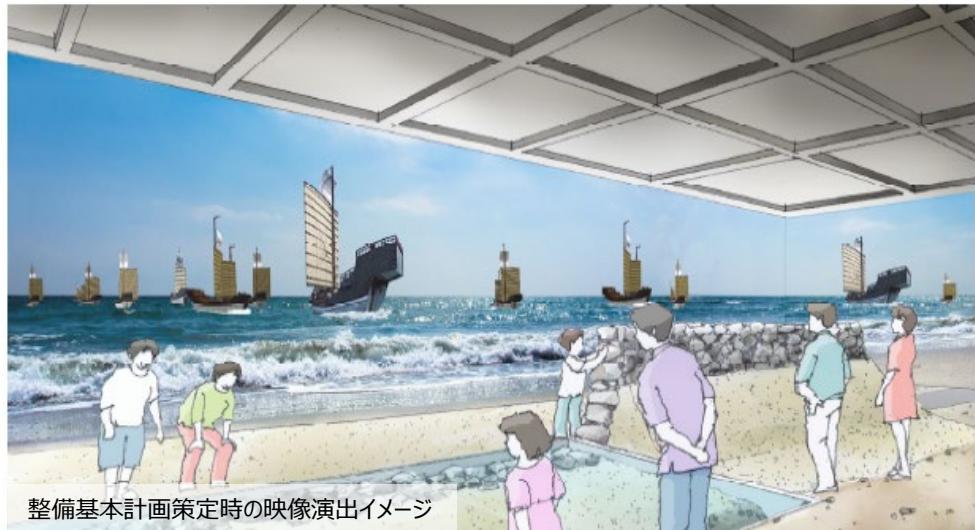
- HKZ1603地点と呼ばれる、史跡南地点の北東部は石積みが最高3段（高さ約1m）残存し、箱崎地区の中で最も状態が良い。
- 長さ約14m、幅約4m（石積みを含む遺構面が連続的に残存する範囲）の露出展示を検討。
- 露出展示にあたり、薬剤等による保存処理や防水壁による浸水対策、空調による環境維持など、遺構保存の手法を試験・検討中。
- 露出遺構展示のほか、当時の防塁を復元したレプリカ展示の検討。
- 陸側は土塁と大溝を復元し、中に入ることができるレプリカを検討。



HKZ1603地点 発掘調査図面（九州大学埋蔵文化財調査室）

## ②映像を活用した理解促進

- 遺構展示と合わせ、映像により、当時の情景を再現する。
- 訪れた来館者へ、元寇防塁の概要や重要性を伝える。
- 元寇防塁をはじめ、古代、中世から近代の歴史的重層性を物語る箱崎のエリアの歴史ストーリーを伝える。
- 地形や都市の変遷を体感できる没入感のある映像を想定。



## ③.体験展示など

子どもが楽しみながら歴史を体感し、学ぶことができるコンテンツを検討。

### ■ 弓を引いてみよう



事例：滋賀県立琵琶湖博物館

### ■ 絵巻物のデジタル体験

タブレットで自分の顔を撮影し、絵巻の中に入り込む体験コンテンツ。



完成したら、モニターに画像が表示されます。  
表示されたQRコードを読み取ると、変身した画像を持ち帰って楽しめます。

コンテンツ候補（他都市の事例）

事例：徳島県立博物館 化もの絵巻AR